

## ベストプラクティス企業への職場訪問

長野労働局（局長 久富康生）は、「過重労働解消キャンペーン」の一環として、11月14日（火）、働き方改革を促進し「物流における2024年問題の解消」に向けて積極的に取り組む企業（ベストプラクティス企業）への職場訪問を実施しました。

今回は、長野市の下記3社を訪問し、各代表取締役様から、荷待ち時間の削減等に向けて、3社一体となった取組、各社独自の取組について説明いただきました。

（訪問には、「国土交通省北陸信越運輸局長野運輸支局長」も同行しました。）

（社員数はいずれも2023年9月30日時点）

### （1）＜運送会社＞

企業名	中央運輸株式会社
所在地	長野市大字川合新田 3487
業種	一般貨物自動車運送業、自動車運送取扱事業、自動車整備業、石油製品販売事業、特定労働者派遣事業、倉庫業、各事業に付帯する事業
社員数	69名

### （2）＜物流会社＞

企業名	マルイチ・ロジスティクス・サービス株式会社（MLS）
所在地	長野市市場3-48
業種	食品全般の物流事業、物流受託事業（低温、常温）営業冷蔵庫事業、幹線物流事業
社員数	269名

### （3）＜荷主＞

企業名	株式会社 マルイチ産商
所在地	長野市市場3-48
業種	水産物および水産加工品、デイリー食品及び冷凍食品、一般ドライ食品および加工食品、畜産物および畜産加工品の卸売業。物流・冷蔵倉庫事業。OA機器・通信機器販売。保険代理店事業。
社員数	552名

訪問日	令和5年11月14日
訪問者	長野労働局 局長 久富 康生、監督課長 森 孝行 荷主特別対策担当官 岩國 眞一郎 長野運輸支局長 山岸忠政
面接者 （敬称略）	(1) 代表取締役 <small>あおき</small> ともこ 青木 智子 (2) 代表取締役 <small>みやじま</small> ゆうじ 宮島 雄二 (3) 代表取締役 <small>かしわざ</small> やすまさ 柏木 康全

労働局長、運輸支局長と3社長との意見交換の様子



(左から MLS 宮島社長、マルイチ産商柏木社長、中央運輸青木社長)



(左から 久富局長、山岸長野運輸支局長) (右端は、MLS 宮島社長)

【社長ほか企業側からの説明】



<MLS>

三社一体となった主な取組を説明  
 運送業者と同行しての現地確認。

パレット積み(パレチゼーション)で、「バラ積み状態」から始める手間が減る。その結果、小売業も「陳列する時間が早くなる」というメリットもある。

バラ積みの運送業者に「パレットを変更するよう」依頼。

<中央運輸>

「物流を止めない」ことを第一に、労働者インフルエンザ予防接種代金を負担。(経済産業省)健康経営法人認定。トラック協会のGマーク取得。

福利厚生面として、熱中症対策を実施。全員の一斉休日が取れない分「アニバーサリー祝金」「誕生日ケーキ贈呈」など、家族で寛げるよう配慮。

卸(荷主) マルイチ産商

物流会社

MLS  
 Market Logistics Service

運送業者 中央運輸

役割：サプライチェーン全体最適化  
 仕入先、販売先と調整  
 取組：共同配送、マテハン統一

役割：荷主と運送事業者を繋ぎ、  
 物流工程をコーディネート  
 取組：荷主と連携し荷役業務改善

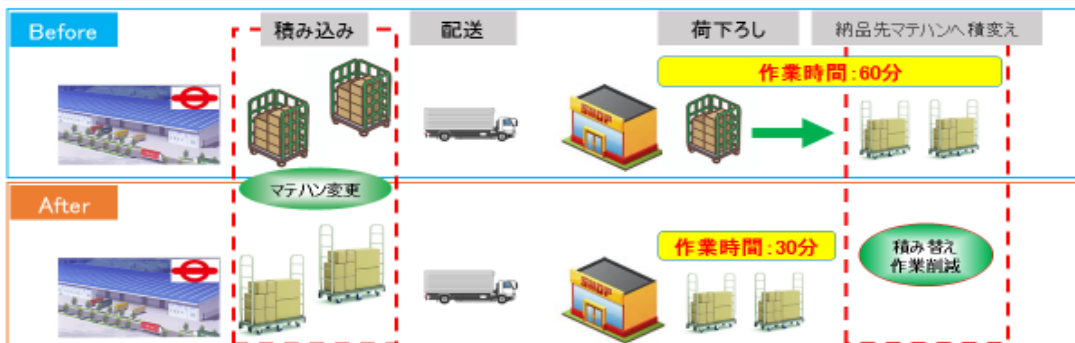
役割：安定した輸配送の構築  
 取組：ドライバー付帯業務削減

改善・取り組み事例 ①納品先専用マテハン活用

<取り組み内容>

得意先店舗様への納品時に使用するマテハンを納品先様仕様に出荷時から統一し、納品時の積替え作業を廃止。

マルイチ	得意先様と物流面でも取り組み強化(物流機能維持・強化) 店舗納品滞在時間短縮/店舗様後工程との連携	<定量面の効果> ドライバーの納品先滞在時間短縮 1日:20時間短縮 1店舗▲30分/日×40店 年間⇒7,000時間の短縮
M L S	荷主からの要件と物流業務カイゼンにつながる業務設計と運用管理	
中央運輸	MLSと設計した運用要件に基づく実装とそのフィードバック更なるカイゼンへ	





### ベストプラクティス企業選定証授与後

(左から長野運輸支局長、MLS 宮島社長、中央運輸 青木社長、  
マルイチ産商 柏木社長、長野労働局長)

#### <マルイチ産商>

「短期的な視点」で見られると、顧客も理解がしにくい。そのような中「2024 年問題」という言葉が「きっかけ」となって、サプライチェーン各関係者が対応しようとしてきてきている。今後、継続・持続的な取組・協力が必要である。

もっと高い評価をして欲しい。働く人が魅力的な職場であって欲しい。効率が上がれば、コストが下がり、労働者の賃金は上がる。

#### 【久富局長からの講評】

トラックドライバーの時間外労働の上限が960時間とされることに伴い、輸送能力が低下し物流の停滞が懸念される。その解決手段としては、

- ① トラックドライバーの増員による総作業時間の増加
- ② いわゆる手待ち時間の削減による総作業時間の増加
- ③ 輸送速度の増大による運送量の増加

があり、今回の三社の取組は②に資するもので、荷主・倉庫事業者・運送業者が一体で「業務の効率化」、「荷待ち時間の短縮の取組」に積極的に取り組んでおられる点を高く評価した。

労働行政としても、労働災害ゼロはもちろんのこと、引き続き荷主要請等関係業界への協力が不可欠として、更なる努力をしていきたい。